

いちごの定植に向けて育苗期の防除を徹底しましょう

ー健全苗の育成・確保ー

育苗期の病害虫防除は、本ぼへ病害虫を持ち込まないための重要な管理作業であり、いちご栽培における重要なポイントです。

例年、炭疽病や萎黄病などが発生し、苗不足の原因となっています。また、見かけ上健全に見える潜在感染株を本ぼへ定植すると、その後発病・枯死し、収量に大きな影響を及ぼす恐れがあります。

さらに近年は、育苗期からうどんこ病の発生が多く見られ、本ぼでの防除に苦慮する事例も増加しています。

虫害では、特にハダニ類の発生に注意が必要です。近年は、栽培初期から天敵を導入する事例も増えているため、本ぼへのハダニ類の持ち込みを防ぐことがこれまで以上に重要となっています。そのため、定植直前の高濃度炭酸ガス施用や灌注剤による防除を実施し、本ぼでのハダニ類発生を極力抑える対策を徹底してください。

いちごの定植作業に向けては、定植前の苗をよく観察し、病害については予防を基本とした防除を行うとともに、虫害については発生初期の防除を徹底してください。また、病害への感染が疑われる苗は速やかに除去・処分し、健全苗の確保に努めてください。

○いちごの主な病害の伝染と発生条件

病名	伝染源	伝染方式	発生の好適条件	防除対策
炭疽病	①潜在感染株＊ ②汚染土壌(罹病残渣)	①雨滴伝染 ②空気伝染	高温多湿	栃木県総合防除計画 栃木県農作物等病害虫雑草防除指針 病害虫防除対策のポイントNo21 薬剤感受性検定結果
萎黄病	①潜在感染株＊ ②汚染資材、土壌	①土壌伝染 ②ランナー伝染	高温	栃木県総合防除計画 栃木県農作物等病害虫雑草防除指針
疫病	①汚染土壌(罹病残渣)	①土壌伝染 ②水媒伝染	高温多湿 (<i>Phytophthora nicotianae</i>) 低温多湿 (<i>Phytophthora cactorum</i>)	
うどんこ病	①潜在感染株＊	①空気伝染	発病適温は20℃前後(乾燥条件でも多湿条件でも発病) 夏季高温期には一時発病が停滞するが、発病条件が整うと発生が増加する	

＊苗による持込み等

注) 疫病の原因菌は主に *Phytophthora nicotianae*、*Phytophthora cactorum* の2種であり、種類によって症状が異なる。前者は高温性であり、発生は夏期高温期に限られる。本県で発生する疫病は *P. cactorum* によるものが多い。

○いちごの主な病害の症状



炭疽病の症状

- ①苗での萎凋症状
- ②葉上の黒色小斑点（斑点型病斑）
- ③葉柄の陥没した病斑
（病斑上に鮭肉色の分生子塊が見られる）
- ④萎凋株のクラウン部（全体が不整形に褐変）



萎黄病の症状

- ⑤⑥新葉の黄化・奇形、
- ⑦萎凋株のクラウン部（導管部が褐変）
- ⑧本ばでの発病状況



疫病の症状（写真は *P.cactorum*）

- ⑨萎凋、葉柄の変色（赤紫色）とスジ状のへこみ
- ⑩、⑪萎凋株のクラウン部
（褐変は不整形）
- ⑫根部の褐変、⑬根の中心が褐変



うどんこ病の症状

⑭、⑮、⑯育苗期の白色菌そう
⑰、⑱赤褐色の褐変(夏季病斑)



ハダニ類の症状

⑲葉表食害痕
⑳葉裏食害痕
㉑、㉒ナミハダニ



ハスモンヨトウの症状

㉓卵塊
㉔葉表食害痕、㉕葉表食害痕と幼虫
㉖葉裏食害痕と幼虫

詳細は、農業総合研究センター 防除課 (Tel 028-665-1244) までお問合せ下さい。
病害虫情報発表のお知らせは「栃木県農政部 X(@tochigi_nousei)」、
農業総合研究センターホームページ (<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>)
でもご覧いただけます。



